

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300571		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホームおとなりさん		
所在地	静岡県富士市五貫島160-1		
自己評価作成日	令和5年2月2日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyogyoCd=2272300571-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋作りの木造建物になり、風情のある内装となっております。天井が吹き抜けで開放感があり、デッキへ出ると四季折々の花や果実が実り、季節を感じると共に、収穫の喜びも味わえます。隣接する介護老人保健施設で開催している、会議・委員会・勉強会等に参加することにより絶えず情報共有を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設が隣にあり、災害訓練や人材の異動など様々な面でスケールメリットを享受できる事業所です。その安定感を以って、看護実習生を受け入れるなど、活動を広げています。実習では、今年度から実習生がレクリエーションを考案することを目標とする新たな取組もあります。「どのようなねらいがあるか」とか、「リスクは何か」といったことを職員が指南することで、職員も新たな発見があり、研鑽と学習につながっています。また若い人の笑い声やふれあいは利用者の活気にも実り、一挙両得の事業と成っています。富士市立看護専門学校のほか、静岡県立看護専門学校や富士宮東高等学校から申し入れがあり、状況を呈しています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人事業計画を基に施設事業計画を作成しています。事業所の強みと弱みを活かして施設目標とし、事業目標の説明後に個人目標へと繋げています	法人のゆるぎない理念と方針を背景に、法人の計画と施設の計画の下、事業所独自の年間目標が立案され、更にそれに沿った個人目標が立てられており、一貫した姿勢が続くよう、仕組みがつけられています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で中止していたが、地域のボランティア、慰問の受け入れを再開予定。	5類移行となり、実習生の受入予定が続々と入っていて、有意義な取組にしようとして事業所では調整を図っています。また以前訪問があったピアノ演奏や絵本の読み聞かせのボランティアの再開も予定されています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の介護実習や、看護学生の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており、意見をいただきサービス向上に活かしております。	運営推進会議は、5類移行を受けて書面開催から参集の開催に戻し、隔月実施を続けています。参会となり、家族、区長、民生委員、富士市介護保険課からの出席を得て、意見交換にも弾みがあります	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	富士市の職員と連携を図り意見をいただいている。運営指導をしていただき、意見をいただいております。	昨年9月には富士市の運営指導がありました。指摘はありませんでした。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて馴染みとなり、利用者の照会も入っていますが、概ね満床のため入居には至っていません	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を設けている。身体拘束委員会を中心に、現状の把握、対策の話し合いを行いスタッフに周知を行っている。	今春4月からの法改正を鑑み、身体拘束適正化委員会とともに虐待防止と感染症対策の委員会運営を始めています。また研修会では、否定的な言葉や肯定的な言葉の意味や遣い方について学んでいます	身体拘束適正化委員会は3ヶ月毎の開催を目標に実施するものです。現在の設定月はアクシデントの折に対応が難しい為、一度見直すことを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他法人、他施設で起きた虐待の事例を元に、なぜ起きてしまったのかを職員で考えて施設では起こさないよう、不適切ケア防止から取り組み努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一敷地内のききょうの郷居宅ケアマネジャーと連携し、研修、学ぶ機会を設置できるよう協議している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は必ず説明を行い理解と納得を頂いている。事項に関することはその都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを毎年実施している。アンケートの結果は改善内容を揭示し、家族へフィードバックしている。また、ご意見箱も設置を行っている。	家族アンケートには賛辞の言葉が連なり、更に「職員も健康に十分留意して今年も今まで通りに頑張ってもらいたい」とエールがあり、双方向の承認があって関係が良好なことが視えます	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等は昼礼等で頂き、検討を行っている。定期面談や適時面談等を実施をしている。	カンファレンスとは別にフロア会議があり、そこで運営に係る伝達事項や現場改善の協議がおこなわれています。課題があって同僚に負担をかける職員には管理者がやんわり諭し、改善に向かった例もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇、ハッピー休暇制度があり、各々休みを取得している。また、時間外の削減も引き続き取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞き年間計画を作成し、法人内研修、外部研修、事業所内の勉強会に参加してスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加して情報共有・交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族様と面談を行い話を伺っている。利用事業者からも情報はいただいている。生活習慣を大切に出来るように職員間で共有し関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族の心配事、困っている事、要望などをしっかり聴く様に心がけている。入居後も電話等で様子をしっかりとお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談を2人で対応して、必要な支援が見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴や習慣・経験を活かし、一緒に家事を行う、会話から昔の様子などを伺う等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて日中の様子を伝えながら、昔の事を伺い、ご家族と一緒に考え協力をしてもらうように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が手紙や電話で、ご家族や知人の方とやりとり出来るように支援を行っている。ZOOMも活用して遠く離れたご家族と話が出来るように努めている。	1日1粒の梅干しを習慣とする人や、常日頃からひとみちゃんと名付ける人形を抱くことで安心して暮らしている人もいます。また毎朝洗顔後に化粧水と乳液を塗り、化粧を施す利用者もいて、介護度に比べ壮健です	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が合う方との会話が楽しめるように席を考えている。レクリエーションを通じて皆さんが楽しめるような関係作りを支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去で退去後は、通夜等に参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常より、ご本人の言葉を大切に記録をしている。 ご家族からの情報を大切に意向を把握している。	個別の意向の聞き取りは1対1となれる入浴や散歩などが主ですが、「きっとコレを楽しみたいだろう」と、富士祭りの時期には富士ばやしと花火大会の視聴でお祭り気分を味わっており、気持ちに沿っています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様担当を中心にご本人・ご家族より情報を随時取得し、職員間で周知してケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや日常生活の様子を記録している。 申し送りや、昼礼にて現状把握をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは生活の意向を確認カンファレンスにて職員より意見をもらい計画書へ反映、サービス担当者会議にてご家族・関係者からも意見をいただき反映させている。	2表の担当者欄に「ご本人」と記載があることに「尊重」が視え、サービス内容にも「本人と相談」とあって、利用者を第一に考える姿勢が、介護計画書の策定においても実っていることが受け止められます	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や、医療家族連携記録に記載を行い職員間で情報共有をしている。また、定期的なモニタリングで見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の介護老人保健施設と連携を図りご本人・ご家族の希望に応じられるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で中止になっていたが、介護サービス相談員受入れを再検討している。隣接介護老人保健施設との連携は強みとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と定期的な訪問診療にて連携を図っている。体調変化時等にも電話連絡等で指示を受けている。必要な場合にはご家族も同席をお願いしている。	訪問診療医は2か所お願いしていますが、現在5名がかかっている月1回の診療医へと今後は移行の予定です。非常勤看護師の週1回の健康管理と医療的ケアもあり、医療連携加算を取得しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の老人保健施設の看護師に定期的に来訪してもらい健康管理と処置の相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連携を図り、入院先の病院へ行き状態の把握、病院関係者と情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針及び看取り指針を説明している。入居時や機会があればご家族に意向を確認している。必要があれば主治医を含めて話をさせていただいている。看取りのご希望の際は同意書を交わしている。	看取りを希望する家族が大半で、職員も経験者ばかりの為、「任せて欲しい」と頼もしい限りです。お見送り後はデスクカンファレンスをおこない、終末期ケアにおける課題を抽出し、質の向上につなげています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル作成と周知を行っている。隣接の介護老人保健施設の看護師と連携して、緊急時の対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、隣接の介護老人保健施設と連携をし防災訓練を行っている。	事業所内での災害訓練は年2回を遵守しており、また運営推進会議では区長から地域の防災対策の現状が伝えられ、出席者の協力意識も高まっています。備蓄は2週間分が確保されていて盤石です	2点期待します。①地域防災への高まりも見られることから関係者で炊き出しをおこなう②新人もいることから訓練メニューの体験と習熟を一覧にまとめ、当日のシフトに役立てる

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を通して、良いケア、好ましくないケアを見る化して、職員間で情報共有をしている。	毎月家族に届けている「〇〇様2023年〇月のご様子」には職員の手書きの説明では、「見られる」「召し上がる」といった敬語で綴られていて、日頃の敬意の姿勢が伝わります	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話を大切にしてその中で希望を引き出している。 その方に合わせた声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の昔からの習慣を大切にしている。 趣味活動は、毎日ご本人と相談をしながら楽しんでもらう。希望があれば臥床時間等も柔軟に対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に着る服を選んでもらっている。 整容、髪の毛のお手入れなど日頃から配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所で調理を行っているが、盛り付けや味付け、野菜のカットなど一緒に行っている。 月に1度は職員の手作りの食事企画にて、入居者の希望を取り入れている。	たこ焼きでは串をつかって有感に浸りご満悦の利用者もいて、どら焼きやBBQの日もあります。コロナ禍を通じてミキサー食が5名となっていますが、3名は刻みや常食へ向けた向上計画が立案されています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、外部の業者によりコントロールされている。 毎日の摂取量や水分量を記録し体重の経過を見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った方法で口腔ケアを実施している。 歯医者を依頼されている方は、口腔内を見ていただき、指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本としている。ご本人の訴えや記録から見える排泄パターンを確認して支援を行っている。	平均介護度は3.6で車いすが7名となっているものの、立位に難があっても2名で介助して「トイレで」を励行しています。夜間鈴を導入し、速やかなトイレ誘導につなげ、昼夜ともにオムツ使用はありません	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りの寒天ゼリーを使用している。また、運動や軽体操なども取り入れている。便秘の方は主治医と相談の上内服等で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月ごとに季節の湯を取り入れている。また、スキンケアの入浴剤なども導入してゆったりしていただけるように配慮を行っている。入浴方法に関しては、カンファレンスで検討を行っている。	入浴ではしょうぶ、ゆず、さくら、よもぎといった季節を彩る植物を投入したかわり湯に取組み、利用者の発語への刺激になっています。浴槽をまたげなくなっても2人介助で、一般家庭の個浴を継続しています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人からの訴えや、その日の体調に合わせて臥床時間等を設けている。夜間も明かりには配慮をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報、居宅療養管理指導を開示して情報共有を行っている。薬が変更になった場合は、その都度周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴から嗜好品や楽しみを知り、裁縫や洗濯物、食器拭き等を職員と共にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来なかったが、インターネットのツールを利用して過去に行ったことがある場所を見ることができた。	地域の感染症状況の影響から散歩の間隔が空いてしまい不定期になっていますが、桜の時期には岩本山公園まで足を延ばし、お弁当を拵げて和やかな時間を過ごしています。春には散歩の再開を予定しています	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則に施設では金銭管理を行っていない。企画等では、ご家族に許可をいただき、ご本人がお買い物できるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等にはいつでも電話やZOOMが出来ることをお伝えしている。その際は個室へ案内するなど配慮を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアのメインにある飾り付けを行って、季節を感じる事ができるようにしている。 花が咲く時期には、フロアに花を飾っている。	介護器具点検として体温計や包丁、車いすなど16種の使用器具のチェックを毎日おこない、安全への対策が図られています。また実習生の受入れなどでは抗原検査を継続して、衛生を担保しています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話をしたいお客様が居た場合は、そばにお連れして距離を保ち会話を楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族の好きな様にレイアウトされている。基本的には使い慣れた物をお持ちいただいている。	寝つきの悪い人には抱き枕を用意したり、「ベッドを低床にしては」と家族へ提案などして、居室での環境整備を推進しています。車いすを使う利用者は居室の出入りは職員の操作の為、特段動線の見直しはおこなっていません	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自走が出来るように、通路には物を置かず、スペースを確保している。		